

文化経験価値のスコアリングと 文化継承のプラットフォーム形成

研究内容

本研究は、文化経験価値モデルを使用した文化体験の価値測定を通じて、文化継承に関わる諸問題について検討を行い、人材プラットフォーム形成に寄与することを目的としている。

文化庁「日本文化への理解と関心を高めるための国における文化発信の取組について」(2009年3月報告)は、日本文化的コンテンツの世界における理解の促進および日本文化発信の推進に必要な基盤整備の取組「国内における日本文化紹介の充実・強化のための対策」の中で、「日本人自身の日本文化理解の促進」を掲げている。然し乍ら、伝統文化を維持継承することは、担い手不足、時間制約、そして予算制約により、深刻な問題となっていると言わざるを得ない。

文化享受者が特定の文化を身体化するためには、その文化体験を継続したいと考える文化経験価値を、スコアリングにより可視化、検証する必要がある。

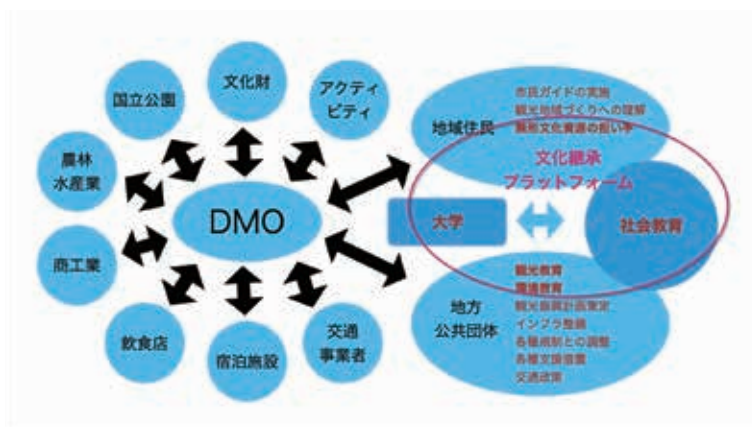
地域・産学連携の可能性

1.人材育成プラットフォーム

令和4年度11月に実施した仙台市内の社会教育団体(文化)調査、等を基底として、仙台市教育委員会社会教育委員報告書(令和5年度末刊行予定)において、執筆担当箇所である「文化継承のための人材育成プラットフォーム」について提言を行う。

2.文化資源活用による地域振興

文化観光は有形のみならず無形の伝統文化に依拠している。特に伝統文化継承者が担う役割は大きい。欧米からのインバウンド観光客の訪日目的は、着地型観光(community-based tourism)が主流であることから、無形日本文化コンテンツを資源として維持継承するため、産学官による地域的取組みが要請される。そこで期待されるのは日本版DMO(Destination Management/Marketing Organization)である。



このテーマに関連するSDGs開発目標



ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科 都市社会経済システム、再生産論、社会教育、ジェンダー、社会情報

亀井 あかね KAMEI Akane

准教授、修士(情報科学)

執筆論文

亀井あかね(2023) 伝統文化とジェンダー、東北工業大学紀要 人文社会科学編 43号 pp79-85.

